

平成16年12月24日

報道機関 各位

情報化推進部情報企画課長  
河野 登

## 平成17年度新規概算要求内示事項について

このことについて、本日開催の本学役員会で報告されましたので、別紙のとおり お知らせいたします。

なお、1、2及び3の事項に関するお問い合わせは、それぞれ事項ごとに紹介先 を掲載しておりますので、直接ご連絡くださるようお願いいたします。4、その 他の事項に関するお問い合わせは、下記あてにお願いいたします。

### 【お問い合わせ先】

広島大学財務部予算決算グループ主査 吉岡 TEL: 082-424-6064
--

[発信枚数; A4版 5枚(本票含む)]

○[平成17年度新規概算要求内示](#)

広島大学  
平成16年12月24日

国立大学法人広島大学における平成17年度新規概算要求内示の主なものは次のとおりです。

## 記

### 1. 歯学部口腔保健学科の新設(別添資料参照)

口腔保健分野において4年生教育を行うことにより、口腔保健分野の学問的体系化、口腔保健分野の指導者育成、質的充実等を目的として、従来の歯科衛生士学校、歯科技工士学校を廃止し、口腔保健学科を設置する。

入学定員 40名

### 2. 宇宙科学センターの新設(別添資料参照)

国立天文台から移管した光学望遠鏡(1.5m)をX線衛星、ガンマ線衛星との連携観測を柱とする「突発・激動天文観測望遠鏡」として活用するため宇宙科学センターを設置する。

### 3. 練習船(豊潮丸)の代船建造(別添資料参照)

昭和53年10月に建造の生物生産学部附属練習船「豊潮丸」は、建造後既に26年が経過し、船体・機関・装備等の強度・安全性・機能が減退すると共に老朽化が進行しているため代船を建造する。

### 4. その他

下記の事業等が特別教育研究経費として措置された。これらの事業等を推進し、教育研究活動や地域貢献の更なる充実を図る。

- 到達目標型教育による21世紀型人材育成システムの構築
- ナノエレクトロニクス融合型応用分野開拓事業
- 国際放射線被ばく者先進医療開発研究の機関連携事業
- 放射光ナノサイエンスの全国展開
- 平和構築に向けた社会的能力の形成と国際協力のあり方に関する調査研究
- 地域との連携による「救命救急医療」の高度化事業

#### ○本学の運営費交付金内示状況について

国からの運営費交付金は、効率化を求められ、総額で約283億円。今年度に比べ実質約2,3億円の減となるが、教育研究活動には支障のないよう、予算執行の効率化に努める所存。



## 口腔保健学科の新設

### (要求要旨)

#### (1)設置目的

口腔保健分野において4年生教育を行うことにより、口腔保健分野の学問的体系化、口腔保健分野の指導者要請、質的充実等を目的として、従来の歯科衛生士学校、歯科技工士学校を廃止し、口腔保健学科を設置する。

#### (2)必要性

少子高齢化社会のわが国では、国民の健康増進や医療費問題に大きな関心が寄せられている。口腔保健医療は健康増進法に明記されており、歯科医療従事者の重要性が認識されている。口腔保健学を学問的に体系化し、教育を充実させることによって、社会的ニーズに応えていく必要がある。

#### (3)期待される成果

口腔保健学科の設置は、わが国における歯科衛生士・技工士職務分野の教育者・研究者や学校歯科保健教育におけるスペシャリスト育成の拠点となり、将来的な国民の口腔健康増進に資することができる。また、本邦で初めて設置される歯科技工士の4年生教育は、これまでのスキルにテクノロジーを加え、新しい型の歯科技工の構築を目指す。

#### (4)入学定員

歯科衛生士学校・歯科技工士学校の入学定員40名を振替え、入学定員を40名とする。

本件に係る照会先  
栗原 歯学部長  
TEL 082-257-5663

## 宇宙科学センターの新設

### (要求要旨)

広島大学では、西日本の大学の宇宙科学研究・教育を強化する目的で、国立天文台三鷹キャンパス内に設置されている赤外シミュレータ(1.5m工学望遠鏡)の移管を受けた。この望遠鏡は、国立天文台すばる望遠鏡に装備する観測装置の開発・試験に用いるために設置されたものである。

この望遠鏡を用い、人工衛星から届く情報と連携した観測を行い、現代天文学の謎とされているガンマ線バーストの起源やブラックホールが引き起こす突発現象等の解明を目指すとともに、院生・学生の専門教育、及び天文リテラシー教育や生涯教育にも活用する。

このため、望遠鏡の移設・改修、管理運営に必要な経費を設け、教育研究、観測機器開発等の中核となる「宇宙科学センター」を新設する。

本件に係る照会先  
広島大学学術部 青山  
TEL 082-424-5860

## 練習船「豊潮丸」の代船建造

### (要求要旨)

生物生産学部附属豊潮丸は、2代目豊潮丸の代船として昭和53年10月に建造された。本船は中国・四国地方の大学所属の唯一の練習船として、水産系の実習教育に利用されてきただけでなく、瀬戸内海を中心とする海洋学的、水産学的、環境科学的研究にも利用されてきた。

しかし建造後既に26年が経過し、船体・機関・装備等の強度・安全性・機能が減退すると共に老朽化が進行している。

このため、今後20数年にわたり、水産技術者・研究者の養成はもとより、瀬戸内海を中核的フィールドとした環境科学・持続的水産業の探求・新海洋生物資源の開発・沿岸海域の国際的総合管理等新しい形で増大している学術的、社会的ニーズに対応出来る「練習船」としての条件を満たす新鋭船を建造する。

本件に係る照会先  
生物生産学部 鈴木  
寛一  
TEL 082-424-7900